

令和元年 8 月 13 日
林 野 庁
近畿中国森林管理局

紀伊田辺地区民有林直轄治山事業地（上秋津区域）における斜面崩壊の現地調査結果について

7 月 28 日に紀伊田辺地区民有林直轄治山事業を実施している上秋津区域において斜面崩壊が発生しました。

近畿中国森林管理局では、学識経験者の協力を得て、下記のとおり今後の崩壊地の危険性等の調査を実施しました。

今後、和歌山県、田辺市ほか地元関係機関と連携・調整を図りながら、調査結果を踏まえた対策を早急に進めてまいります。

記

1. 日 時 令和元年 8 月 1 日（木）13 時～15 時
2. 調査箇所 和歌山県田辺市上秋津
3. 学識経験者
京都大学 防災研究所 松浦純生教授
森林総合研究所 森林防災研究領域 山地災害研究室 岡本隆室長
4. 調査の結果
別紙のとおり

【担 当】

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1 丁目 8 番 75 号



林野庁 近畿中国森林管理局 計画保全部 治山課

治山課長 蓮尾 秀平

災害対策専門官 澤井 孝仁

電 話 : 06-6881-3492

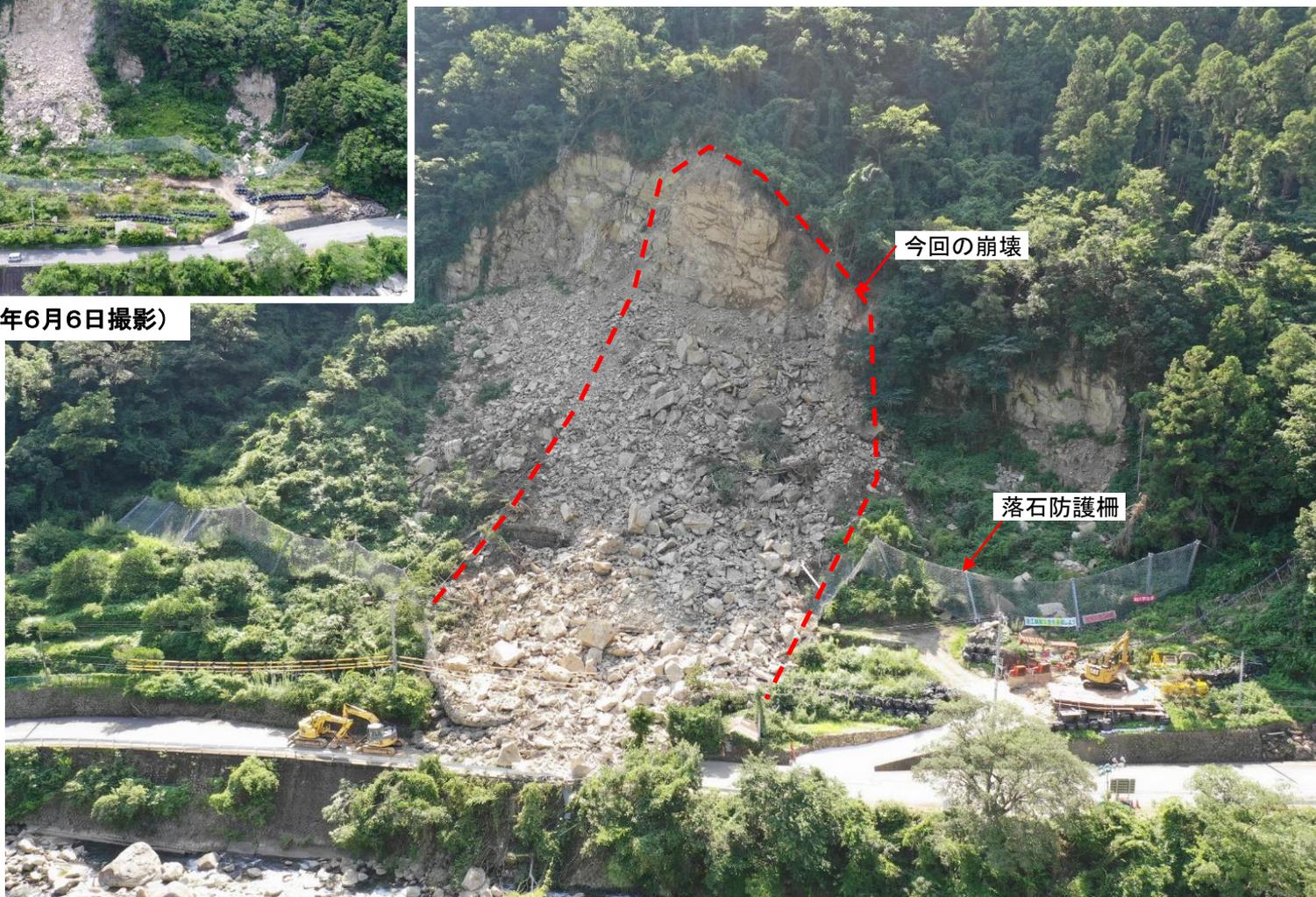
F A X : 06-6355-2758

林野庁

崩壊地の状況①



崩壊前(令和元年6月6日撮影)

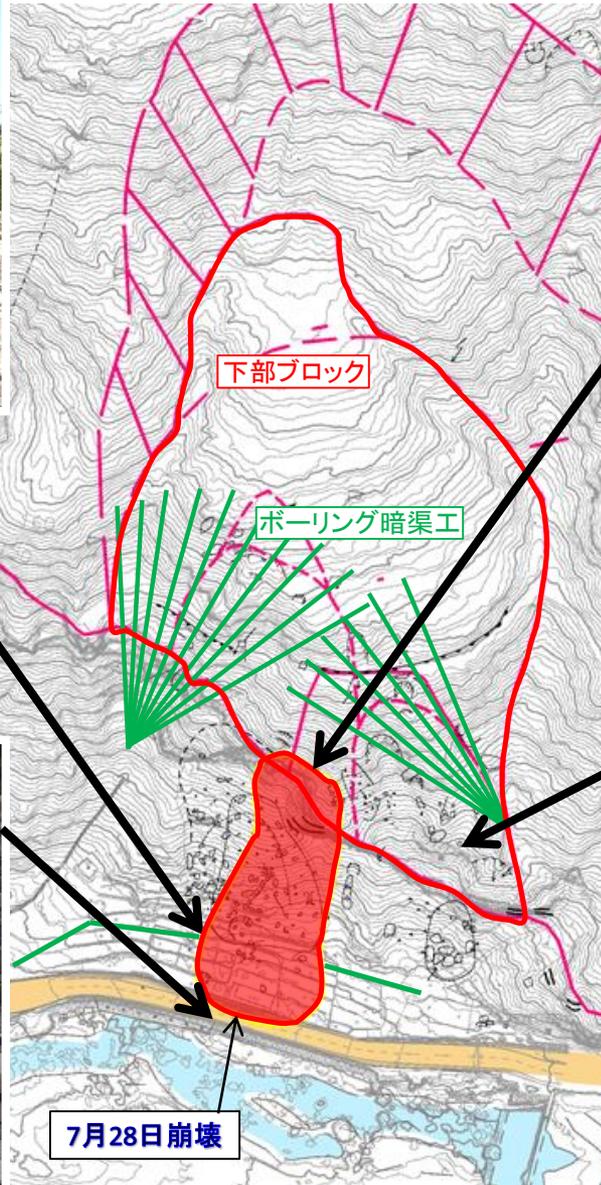


崩壊後(令和元年7月29日撮影)

崩壊地の状況②

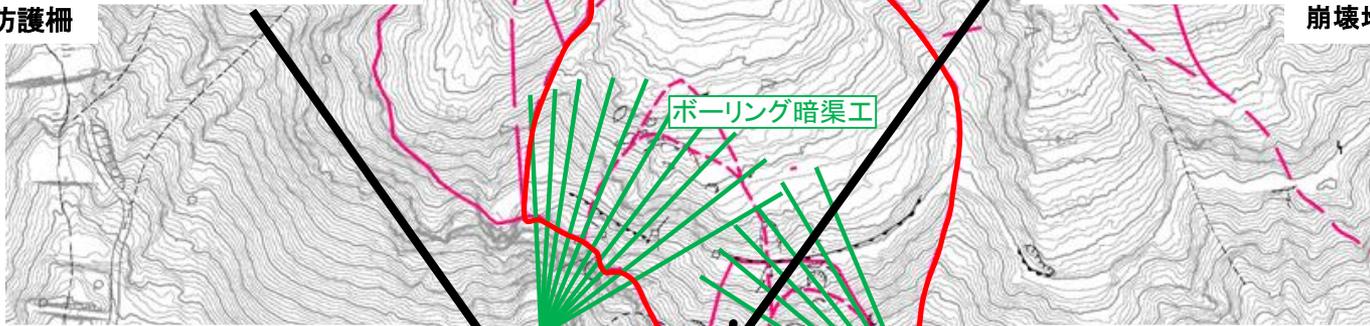


破損した落石防護柵



下部ブロック

崩壊地上部が下部ブロックの末端



ボーリング暗渠工



ガードレールに達した落石



今回の崩壊箇所の後背斜面で見つかった段差亀裂 3

学識経験者の主なコメント

- 崩壊した箇所は、砂岩・泥岩で構成された岩盤に複雑な亀裂が入り、風化が進行し、ぜい弱化している。
- 下部ブロックの末端にひずみが累積した結果、崩壊した箇所に応力が集中し、崩壊（ブロックトップリング崩壊）を起こしたと考えられる。
- また、7月の継続的な降雨により下部ブロックの移動が活発化したことも原因となった可能性がある。
- 崩壊発生以後、下部ブロックの移動が活発化していること、崩壊した箇所の後背斜面に新たな段差亀裂（クラック）も見つかっていることから、不安定さが増している可能性があり、拡大崩壊へ十分な注意が必要である。
- したがって、拡大崩壊に対する隔測技術等を用いたモニタリングを早期に実施するとともに、無人化施工技術などによる土塁などの応急対策を行う必要がある。
- 崩壊後における下部ブロックおよび全体ブロックのモニタリングを継続して実施するとともに、十分な安全対策を取った上で、下部ブロックの活動を抑制・抑止するための対策を早期に再開する必要がある。